

## 第 3 回飯能市地域公共交通対策協議会 議事録の概要（経過）・決定事項

(1) 本協議会の第 3 回目の開催にあたり、事務局長から開会が宣せられたのち、以下のとおり報告等をした。

- ①欠席委員、代理出席等の報告：事務局長から報告をした。
- ②会長挨拶：会長（上副市長）から開会に際し、挨拶をした。
- ③自己紹介：計画策定業務委託事業者の日本工営株式会社各自による自己紹介をした。

(2) アンケート調査等の実施について

事務局から、以下の資料に基づき説明した。

①アンケート調査等の実施について（資料 1）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・資料 1-5 のバス利用者アンケート調査について、調査日時が平日 2 日間程度とあるが、天候は考慮しないのか。名栗路線には、中学校が 2 校あり、自転車通学者は雨天の場合、バスを利用するなど、天候による乗客数の変動も有り得る。また、大雪が降った際にバスの利用者が増えた例もある。

→天候は考えずに調査を予定している。

・事前の調査員を準備して実施することもあり、天候を考慮して日程を変更することは難しい。資料 1-3 に示されている住民アンケート調査票において、鉄道の利用（Q9）や路線バスの利用（Q10）等で、利用する理由として、「⑥雨や雪などの悪天候のとき」という選択肢があるので、そちらの設問で補足できるとも考えられる。また、資料 1-5 のバス利用者アンケート調査の利用頻度を聞く設問（Q7）に天候に関する選択肢を追加することでも補足可能と考えられる。

→ご意見を踏まえ、アンケート内容を再検討したい。

・資料 1-3 に示されている住民アンケート調査票で、バスと鉄道については、利用しない理由を聞いているが、タクシーに対しては利用しない理由は聞かないのか。

→ご意見を踏まえ、アンケート内容を再検討したい。

・タクシーの利用に関する意見は把握することが望ましい。ただし、タクシーを利用しない理由を聞くと「高いから」で終わってしまうことも考えられるため、「どのような場面で利用するか」を聞くとよいのではないか。また、その他アンケート調査票の誤字等については、事務局で最終的に確認いただきたい。

→事務局で再確認し、アンケートを実施したい。

・資料 1-4 に施策レビューの様式があるが、飯能市地域公共交通基本計画で示した事業でうまく着手できなかったもの、事業が立ち止まってしまったものを、振り返ることも重要であるため、様式に追加することが望ましい。他の自治体では、交通政策以外の分野の施策の環境変化により、取り組まなくてもよくなった例もある。

→ご意見を踏まえ、再検討したい。

### (3) スクールバスの活用について

事務局から、以下の資料に基づき説明した。

#### ①スクールバスの混乗及び活用について（資料2）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・スクールバスの混乗については住民の方々から要望を強く受けている。実施するにあたってはルール作りが必要である。

・吾野地区は、学校の統合も含め、学校のあり方について検討を進めている。現在ある3校の小学校の統合についても、地域と市で積極的な意見交換を進めているところである。

スクールバスの混乗に関して、ご意見があればいただきたい。

・スクールバスの活用にはいろいろな方法が考えられる。混乗で実施する手法や、既存の路線バスに児童を無料で乗せる等の手法などがある。行事への対応や早帰りの場合への対応等の課題が考えられる。当面は吾野小学校の子供たちが乗っている時間帯で運行し、行事や早帰りの場合等の課題の対応を整理した上で、他のエリアでの可能性を検討していく段取りになるのではないかと。

・事務局から事前に報告があったが、地域との意見交換が重要である。

### (4) その他

事務局から、その他の事項について、以下の資料に基づき説明した。

#### ①平成29年度路線バスの利用促進に向けた取り組み（資料3-1）

#### ②飯能駅北口バス路線案内図（資料3-2）

#### ③はんのう市ノーマイカーデー（試行）実施要領（案）（資料3-3）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。また、公共交通利用に関する意見交換を行い、各委員から以下のとおりご意見等があった。

・ノーマイカーデーについて、チラシと説明資料の日付が異なっている。

→チラシが誤っているため、修正（12/17(日)まで）する。

・市長が週に1回、路線バスで登庁している。「公共交通の灯りを消してはいけない」との思いのもと、市長が先頭に立って進めている。市長とも今後調整し、取組を大々的に進めていきたい。委員の皆様のご協力をいただきたい。

・埼玉県では、県内の網形成計画の策定状況を確認しているところである。入間市においては、交通空白地域の解消に向けて、コミュニティバスの再編を目玉に策定を進めていたが、国から、コミュニティバスだけでは、コミュニティバス再編計画であるので、路線バスの路線変更も含めて、策定を検討することと指摘を受けた。飯能市においても、スクールバスの混乗も含め、路線バスの再編まで含んだ検討を進めてほしい。また、県内において、策定における国等との調整が難航し、策定スケジュールが遅れた例もあるので、十分

に調整して策定いただきたい。

・本日、「はんのうふくしの森プラン」の紹介カードを配らせていただいた。現在、第3次のはんのうふくしの森プランも策定しているところであり、福祉の中で公共交通を考えていくべきであり、地域を巻き込んで取組んでいくことが重要と、国から助言をいただいた。今後においては、高齢者の運転免許証返納後のフォローとして公共交通の維持を考えていく必要がある。双柳地区で路線を変更し循環にして、乗客が増えた事例もあることから、様々なアイデアを盛り込んでいただきたい。そのためにも、アンケート調査等を活用して地域の実情を明らかにしていただきたいと考えている。また、駿河台大学において開催される地域づくりのシンポジウムで、公共施設の統廃合に関するパネルディスカッションに出席する予定があり、その場で空白地域を作らないような公共交通網の形成が重要であることや飯能市の取組について紹介したいと考えている。

→福祉の観点も重要である。ご指導のほどよろしくお願ひしたい。

・彩京のびのびバスを持っているような人たちでサークルを作り、市内の観光地を路線バスで巡る取組を行っている。名栗地区のみならず、南高麗も紹介しており、間野黒指などの飯能市に住んでいる方でも知らないような観光地を巡る観光ツアーを企画している。また、郷土史研究会の会長とも連携して取り組んでいる。今後も継続して実施していきたい。

→ぜひ引き続き仲間を増やしていただきたい。

・イベント実施に関する結果について報告する。名栗地区でのウォーキングイベントでは、参加者80名中25名が路線バスを利用して参加いただいた。また、親子で川遊び体験では、参加者180名中177名がバスを利用して参加いただき、バスの運賃収入を試算すると、約15万円にもなる。なぐりブラさんぽでは、参加者180名中十数名ほどがバス利用いただいた。今後については、伝説の森ウノタワの秘境イベントも企画しているところである。

→名栗の皆さんはイベントを通じて地域活性化に努力いただいている。イベントを通じて路線バスの利用が増えることを期待している。

・国際興業バスの飯能営業所が立派になったのには驚いた。案内板に木の板を使っていた。このような取組は住民としてうれしい限りである。

・名栗行バスは、国と県の補助対象の地域幹線間路線となっている。今年度、国の補助スキームが変わる予定であり、生産性の向上の取り組み（スクールバスの混乗や貨客混載等）が示されないと、次年度から例年どおりの補助金が交付されない仕組みが導入される。定期券を買っていただくと、収入増となるので、そういった取組も併せて検討いただきたい。

・総括を申し上げる。3点ほどお話しする。

・1点目はアンケートの実施やこれまでの取組をレビューし、飯能市として、今後何をやっていくことが望ましいかを検討していくことになる。バス停の新設やスクールバス混乗化等、一步一步前に進んでいるところもある。これらの活動を定着させていくこと、足りないところを整理していく必要がある。

・2点目は、ノーマイカーデーの参加者へのインセンティブがないのがさみしいと感じた。

飯能市で運営している SNS 等で参加企業を紹介するなど、できる範囲のインセンティブについてご検討いただきたい。

・3 点目は、福祉と公共交通の融合について検討することである。国土交通省の「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会」においても話題に上がっているところである。その点については、東洋大学白山キャンパスにおいて、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」が 10 月 28、29 日に開催され、その中で超高齢化社会の移動手段について事例紹介等をさせていただく予定である。